

平成三十一年度採用

群馬県公立学校教員選考試験問題

中学校（国語）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

注意事項

- 一 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 二 問題は、一ページから七ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 三 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 四 「終了」の指示があつたら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と解答用紙の両方を机の上に置いてください。
- 五 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 六 この問題用紙は、持ち帰ってください。

一 第三学年「書くこと」の学習において、県外の小学六年生に群馬の魅力を伝えるリーフレットをグループで作成する学習活動を設定した。次のア・イは生徒Aが集めてきた情報の一部である。後の「問一」～「問五」に答えなさい。

ア 「ガイドブックから」

「上野三碑」は、飛鳥時代末期から奈良時代初期にかけて建てられた山上碑・多胡碑・金井沢碑の三つの石碑のことをいう。二〇一七年十月三十一日、ユネスコ「世界の記憶」に登録された。千三百年前の東アジアの文化交流を記す日本最古の石碑群である。

- ・「山上碑」は、日本語の順序で文字が書かれた最古の石碑である。
- ・「多胡碑」は、多胡郡が作られた記念碑で、書道の手本として有名である。
- ・「金井沢碑」は、家族の幸せを祈った碑で、仏教の広がりや家族のあり方など古代の一族の様子が書かれている。

イ 「新聞記事から」

【接近した地域に集中】
「上野三碑」は飛鳥・奈良時代に高崎市南部に建てられた山上碑、多胡碑、金井沢碑の総称である。全国的にみてもこれほど接近した地域に集中していることは極めて珍しく、その歴史的価値の高さから、いずれも国の「特別史跡」に指定されている。

【実際に見ることで歴史を感じる】
「上野三碑」は直径三キロの範囲に集中している。ウォーキングをしながら、また、電車で景色を眺めながら巡ることもできる。無料で三碑をめぐるバスもある。多胡碑の近くにある多胡碑記念館には、三碑の実物大レプリカなどが展示されている。

「問一」 生徒Aは、ガイドブックと新聞記事からア・イの情報を集めてきた。これらをリーフレットに引用する際、指導すべきことを二つ書きなさい。

「問二」 ア・イの文章の書き方の工夫を、それぞれ簡潔に書きなさい。

「問三」 伝える方法として、ポスターやパンフレット、新聞等も考えられるが、その中で「リーフレット」を設定した教師の意図を、「パンフレット」と比較して書きなさい。

「問四」 次は、リーフレット作成のためにグループ交流で使った【生徒Aの下書き】と、【グループ交流の観点】である。後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

【生徒Aの下書き】

I 「歴史を語る日本最古の石碑群」
群馬の魅力の総称です。1300年前の日本最古の石碑群で、これほど珍しいユネスコに登録された飛鳥・奈良時代の山上碑、多胡碑、金井沢碑を記す高崎市の高沢地区に建てられた山上碑、多胡碑、金井沢碑の三つの石碑群です。2017年、ユネスコ「世界の記憶」に登録されました。

II 「母に対する思いは変わらない」
先日、電車で乗って、上野三碑に行きました。よ私ひも小た昔今上た。皆さんぜひ足を運んでみてください。

【グループ交流の観点】

- ① 小学六年生に向けて書かれた内容になっているか。
← 相手意識
- ② 群馬県の魅力が伝わる内容になっているか。
← 意識
- ③ リーフレットの特徴を生かして作成しているか。
← 方法意識

- (一) 【生徒Aの下書き】のよい点についてまとめた次の文章の a、b に当てはまる内容を簡潔に書きなさい。

Iで書かれた内容は、ア・イの情報から、
a
IIで書かれた内容は、イの後半の情報をもとに、
b

- (二) 【グループ交流の観点】では、①～③の三つの意識に着目している。【 】に当てはまる語を漢字二字で書きなさい。

- (三) グループ交流が円滑に進められるように、【グループ交流の観点】を基に生徒同士が行うアドバイスを、教師が例示することにした。観点①について、どのような例示が考えられるかを書きなさい。

- 〔問五〕 生徒Aは次のように単元の学習を振り返った。単元を通して学んだことを自覚させ、今後の学習につなげられるようにするために、教師として——線c、dの記述に対して、どのように助言したらよいかをそれぞれ書きなさい。

僕の担当は「上野三碑」だった。ガイドブックや新聞記事から情報を見つけた。同じテーマでも文章の内容や書き方がいろいろあることが分かった。多くの情報をまとめるのは難しかったけれど、Bさんのまとめ方を参考にしたら、自分なりに書けるようになった。今回、グループでリーフレットを作ってみて、最初は不安だったけれど、完成した時はとてもうれしかった。みんなのアドバイスも参考になった。dまたみんなでリーフレットのようなものを作りたい。
--

二 次 の 文 章 を 読 ん で 、 後 の (問 一) ～ (問 七) に 答 え な さ い 。

〔問一〕 〰〰〰線アくエの漢字は読みをひらがなで、カタカナは漢字に直して書きなさい。送り仮名がある場合は、送り仮名を付けなさい。

〔問二〕 〰〰〰線オ「肝に銘ずる」は慣用句であるが、その意味を書きなさい。

〔問三〕 A、 B にあてはまる語句を、次のアくエから選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 【ア 千里眼　イ 十人十色　ウ 五十歩百歩　エ 一挙手一投足】

B 【ア 鶴の一声　イ 雨後の竹の子　ウ 他山の石　エ 阿吽あうんの呼吸】

〔問四〕 〰〰〰線①「私たちはもう一度、人間が作り上げた共同体がどのようなものであったかを再確認しなくてはならない」とあるが、人間が作り上げた共同体とはどのようなものであったと述べているか。文章中から十五字以内で抜き出しなさい。

〔問五〕 筆者は、「他者とのつながり」という視点から、ゴリラと現代の人間の違いについて述べている。その概要を六十字以上、八十字以内で書きなさい。

〔問六〕 C にあてはまる語句を、(中略)より前から二字で書き抜きなさい。

〔問七〕 〰〰〰線②「未来の世代がこの地球で生き延びていく自由」とあるが、それを実現させるために、筆者はどうしたらよいと述べているか。「子どもたち」という語を使って、三十字以上、四十字以内で書きなさい。

三 次の漢詩 A・B を読んで、後の〔問一〕～〔問五〕に答えなさい。

(A、B の原文は「新釈漢文大系 唐詩選」による)

〔問一〕 A と B の漢詩の形式をそれぞれ漢字四字で書きなさい。

〔問二〕 A は、「誰が誰に対して何をした詩」か、書きなさい。

〔問三〕 A の について、作者の悲しみが一層感じられる表現であることを生徒に気付かせたい。どのような指導が考えられるか。作者の視野に着目して答えなさい。

〔問四〕 Bについて、次の(一)～(三)の問いに答えなさい。

(一) ー線①に返り点を付けなさい。

(二) ②に入る適切な語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 南走 イ 東走 ウ 南征 エ 東征

(三) ー線③「何得愁中却尽生」を書き下し文に直しなさい。また、この意味を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア もし、この笛の音を聞いたならば、憂いに堪えぬ私の心の中に、かえつていつばいに故郷の楊柳の様子が広がるであろう。

イ たとえ、この笛の音を聞いたとしても、憂いに堪えぬ私の心の中に、かえつていつばいに故郷の楊柳の様子は広がらないであろう。

ウ おそらく、この笛の音を聞いて憂いに堪えぬ私の心の中に、かえつていつばいに故郷の楊柳の様子が広がっていくのだろう。

エ なぜ、この笛の音を聞いて憂いに堪えぬ私の心の中に、かえつていつばいに故郷の楊柳の様子が広がるのであろうか。

〔問五〕 Aを題材に、クラスで音読発表会をするという言語活動を設定した。このような言語活動を設定した教師の意図は何か。中学校学習指導要領解説国語編の内容を踏まえて答えなさい。

四 次の古文を読んで、後の〔問一〕～〔問八〕に答えなさい。

〔徒然草〕第百八十八段による。

- 〔問一〕 この作品は古典における三大随筆の一つである。この作品の作者と、この作品以外の三大随筆の作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。
- 〔問二〕 ——線①「理」、④「齢」の読み方を現代仮名遣いで書きなさい。
- 〔問三〕 ——線②「すさまじく」、⑤「むねとあらまほしからん事」を現代語に訳しなさい。
- 〔問四〕 ～～線ア、イの「ぬ」は意味が異なる。それぞれの「ぬ」の文法上の違いを説明しなさい。
- 〔問五〕 ——線③「この事」が指す内容を具体的に説明しなさい。
- 〔問六〕 本文中には、人が年を取っていく様子を他のものに例えている箇所がある。何に例えているかを現代語で答えなさい。
- 〔問七〕 ——線の考えに対して、あなたはどうか考えるか。賛成か反対かを明確にして、八十字以上、百字以内で書きなさい。
- 〔問八〕 古典の学習において、随筆を扱う際に生徒に気付かせたいことを、中学校学習指導要領解説国語編の内容を踏まえて答えなさい。

国語解答用紙	一枚中の二	受験番号		氏名	
--------	-------	------	--	----	--

(31年)

三

(問一)	A		B	
(問二)				
(問三)				
(問四)	(一)	風飄律呂相和切	(二)	
	(三)	読み上		意味
(問五)				

四

(問一)	作者		作品名	
(問二)	①		①	
(問三)	②		⑤	
(問四)				
(問五)				
(問六)				
(問七)				
(問八)				

以下はあくまでも解答の一例です。

国語解答用紙	一枚中の一	受験番号		氏名	
--------	-------	------	--	----	--

(31年)

[問一]	出典を明示すること 「 」でくくること 引用する文章が適切な量であること 等	※右の中から二点書く	各2点
[問二]	ア 簡条書きを使っている。	イ 小見出しを使っている。	各2点
[問三]	絵や写真、見出し等を使って紙面を構成しているのは両者とも同じだが、パンフレットが複数枚でまとめるのに対して、リーフレットは一枚にまとめるので、書くスペースが限られる。そのため、伝えたいことを明確かつ簡潔に書くにはどうしたらよいかを考えさせたい。		
[問四]	(一)	a 必要な情報を取り出して、自分なりにまとめている。	等 3点
		b 実際に見学し、その体験を書くことで説得力を高めている。	等 3点
	(二)	目的 3点	
[問五]	(三)	「総称」といっても小学生には理解できないから、「合わせた呼び名」にした方がいいと思います。「供養」は小学生には読めないと思うから、ふりがなをふるといいと思います。	
	c	どのようなことに気を付けたら、Bさんのようにまとめられたのか、詳しく書いてみましょう。	
	d	リーフレット以外にどのようなものが作れそうか考えましょう。次に作る時にはどのようなことに気をつけるとよいか書いてみましょう。	

[問一]	ア くうきよ	イ 効率	ウ 損なわれ	エ 宣言	各2点	
[問二]	深く心に刻む。心に刻みつけて忘れない。				等 3点	
[問三]	A エ	B	イ	各2点		
[問四]	他者に依存して生活で生きる世界				3点	
[問五]	(例)	ゴリラは群れを自分の体のように感じ、目の前の相手と強く信頼し合っているが、現代の人間は誰が敵か味方かもわからなくなり、わが身を守るために暴力を用いている。				
	[問六]	暴力	3点			5点
	[問七]	(例)	環境破壊を食い止め、世界が一つになつて未来を担う子どもたちを育てるとよい。			

4点

国語解管用紙	二枚中の二	受験番号		氏名	
--------	-------	------	--	----	--

(31年)

三

〔問一〕	A 七言絶句 2点	B 七言律詩 2点		
〔問二〕	李白が孟浩然に対して別れを惜しんだ詩			等 4点
〔問三〕	時間の経過にともなう、友人が乗った舟の姿が次第に小さくなり、最後に消えていくことを実感させるために、複数のコマに分けて作者の見えているものを絵で描かせたり、距離が遠くなることで見え方はどうなるかを考えさせたりする。			等 4点
〔問四〕	(一)	風、飄々、律呂、相和切	(二)	ウ
	(三)	書字し文	何ぞ愁中に却つて尽く生ずるを得し	意味 エ
〔問五〕	音読を通して、古典特有のリズムを味わわせながら、古典の世界に触れさせたい。 (楽しませたい、親しませたい)			等 4点

四

〔問一〕	作者	吉田兼好(養蒙・兼善)	2点	作品名	枕草子	方丈記	各2点
〔問二〕	①	ことわり	2点	④	よわい		2点
〔問三〕	②	つまらなく おもしろくなく 興ざめた	等 2点	⑤	主として望ましいようなこと		等 2点
〔問四〕	アの「ぬ」は、打消しの助動詞「ず」の連体形であり、 イの「ぬ」は、完了の助動詞「ぬ」の終止形である。						等 3点
〔問五〕	乗馬や早歌を習っているうちに、本来の目的だった仏教の説教を習う時間がないままに年を取ってしまったこと。						等 3点
〔問六〕	坂道を転がる車輪						等 3点
〔問七〕	(例) 私 は 作 者 の 考 え に 賛 成 で す 。 多 く の も の や						
	情 報 が あ ふ れ る 現 代 、 あ れ も こ れ も 手 を 出 す						
	と 、 ど れ も が 中 途 半 端 に な っ て し ま い ま す 。						
	そ れ な ら ば 、 一 つ に 絞 っ た 方 が 達 成 感 も 得 ら						
〔問八〕	「古典に表れたものの見方や考え方」の中には、長い年月を隔てもなお現代と共通するものもあれば、 現代とは大きく異なるものもあるということ。						等 3点

〔問七〕私は反対です。一つに絞り込んでしまうと、失敗したときにやり直すことが難しいと思います。
それに、いろいろなものに挑戦することは、人間の幅も広がるのでよいと思います。